

指定管理者制度導入施設 中間評価シート

1 基本情報

公の施設名	相模原市立老人福祉センター溪松園、相模原市立老人福祉センター若竹園
指定管理者名	公益財団法人相模原市まち・みどり公社
指定期間	令和4年4月1日から令和9年3月31日まで
施設設置条例	相模原市立老人福祉センター条例
施設の設置目的	老人に関する各種の相談に応ずるとともに、老人に対して健康の増進、教養の向上及びレクリエーションのための便宜を供与する施設（相模原市立老人福祉センター条例第2条）
施設概要	<p>【相模原市立老人福祉センター溪松園】 所在地：相模原市緑区大島3339 規模：鉄筋コンクリート造平屋建 延床面積：2,055.32㎡ 備考：老人福祉センターA型 昭和47年9月1日開館</p> <p>【相模原市立老人福祉センター若竹園】 所在地：相模原市南区若松2-1-38 規模：鉄筋コンクリート造2階建 延床面積：1,233.8㎡ 備考：老人福祉センターA型 昭和57年4月14日開館</p>
施設所管課	健康福祉局 地域包括ケア推進部 高齢・障害者福祉課

2 管理実績

項目		令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
溪松園	利用者数合計（人）	15,474	23,246	25,426		
	開所日数（日）	347	348	347		
若竹園	利用者数合計（人）	17,924	22,357	25,116		
	開所日数（日）	347	348	347		

3 成果指標の達成度

評価（5評価）	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	評価点 (20点満点)	評価点
	D	D	D				0

指標	
指標名（人）	一日平均利用者数
指標式と指標の説明	年間利用者数 ÷ 開所日数

項目		令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
溪松園	目標値（人）	160人	161人	161人		
	実績値（人）	44.6人	66.8人	73.3人		
	達成度（%）	27.9%	41.5%	45.5%		
若竹園	目標値（人）	150人	151人	151人		
	実績値（人）	51.7人	64.2人	72.4人		
	達成度（%）	34.4%	42.5%	47.9%		

4 事業の実施状況

評価（5評価）	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	評価点 (20点満点)	評価点
	A	A	A				15

市が指定する事業		
主な事業名	内容等	効果等
(溪松園) 医師・看護師による健康相談	参加者に医師や看護師から健康に関するアドバイスをを行った。	利用者が健康について気になっていることや悩んでいることを相談できる場を提供できた。 令和4年度：141人参加 令和5年度：120人参加 令和6年度：134人参加
(若竹園) 医師・看護師による健康相談	参加者に医師や看護師から健康に関するアドバイスをを行った。	利用者が健康について気になっていることや悩んでいることを相談できる場を提供できた。 令和4年度：76人参加 令和5年度：91人参加 令和6年度：88人参加

企画提案事業 (浜松園)

主な事業名	内容等	効果等
健康体操教室	介護予防・健康増進のために、ワンコインで利用できる健康体操を実施した。	介護予防や健康増進のため、体を動かせる場を提供した。 令和4年度 全9回 延べ60人参加（定員180人） 令和5年度 全12回延べ139人参加（定員240人） 令和6年度 全12回延べ210人参加（定員240人）
まちかど講座	令和4年度、令和5年度は相模原の美術文化を築いた先人たちの足跡を知り、それらの画家が本市の文化振興に与えた影響を考える講座を実施した。令和6年度は緑保健センターと連携し、栄養士による高齢者の正しい食生活のあり方についての講座を実施した。	本市の文化振興や正しい食生活について学べる機会を提供した。 令和4年度「相模原市の美術史～昭和・平成の画家たち」14人参加（定員20人） 令和5年度「相模原市の美術史～昭和・平成の画家たち」4人参加（定員15人） 令和6年度「食と健康」9人参加（定員20人）
定期映画観賞会	相模原市の視聴覚ライブラリーを活用し、高齢者に人気のある作品を上映した。	高齢者に人気のある映画を楽しむ機会を提供した。 令和4年度 全3回 延べ30人参加（定員60人） 令和5年度 全6回 延べ75人参加（定員120人） 令和6年度 全6回 延べ58人参加（定員120人）
交通安全・防犯講習会	高齢運転者による交通事故を未然に防ぐため、警察署員による講習会を実施した。	交通安全について学べる機会を提供した。 令和5年度 20人参加（定員15人）
認知症サポーター養成講座	認知症の人やその家族を見守る応援者である「認知症サポーター」を養成するための講座を実施した。	認知症について学べる機会を提供した。 令和4年度 10人参加（定員20人） 令和5年度 7人参加（定員20人） 令和6年度 5人参加

企画提案事業 (若竹園)		
主な事業名	内容等	効果等
介護予防教室	できる限り自立した生活を送ることを可能とするための「予防重視型」健康づくりを目的とした事業を実施した。	介護予防について学べる機会を提供した。 令和4年度 8人参加 (定員20人) 令和5年度 23人参加 (定員25人) 令和6年度 42人参加 (定員40人)
まちかど講座	令和4年度は、若竹園周辺に伝わる民話や伝説について専門家の説明を聞き、地域に対する関心と愛着を深めた。 令和5年度は、市立博物館学芸員による、歴史にまつわる講座を実施した。 令和6年度は、地域に対する関心と愛着を深める事を目的に「木もれびの森」の四季折々の姿を紹介した。	施設周辺地域の魅力を発信することができた。 令和4年度 「歴史探訪講座」17人参加 (定員20人) 令和5年度 「歴史探訪講座」10人参加 (定員20人) 令和6年度 「木もれびの森魅力発見」20人参加 (定員20人)
エンディングノートの作り方教室	万一に備えて、自身の思いや希望を書きまとめておくノートの作り方を学んだ。	自身のことを考え直す機会を提供した。 令和4年度 11人参加 (定員20人)
防犯講習会	高齢者を対象として「オレオレ詐欺」の実態とその予防について、警察署員による講習会を実施した。	防犯について学べる機会を提供した。 令和5年度 16人参加 (定員20人)
ふれあい交流事業 「若松小学校児童作品展」	近隣小学校の児童作品展を実施した。	世代間交流の促進としての、ふれあいの機会を創出した。 令和4年度 1,342人来場 令和5年度 1,551人来場 令和6年度 1,696人来場

自主事業 (溪松園)		
主な事業名	内容等	効果等
コンビニの移動販売	施設利用者及び近隣の住民の方に民間のコンビニ事業者による移動販売を提供した。	施設周辺に飲食店がないことから、利用者サービスの充実につながったほか、近隣の住民の方の利便性の向上につながった。
新しいホームページの作成	施設独自のホームページを作成し、施設概要及び自主事業等の案内を掲載した。	HPを通じ各種イベントや施設の修繕にかかるお知らせを利用者及び関係者に情報発信ができた。
WEBの空室情報の発信	WEBでの空室情報の発信を行った。	システムの導入により、利用者が部屋の空き状況をいつでも確認できる環境を整えた。
50周年記念事業 「溪松園50年の歩みパネル展」ほか	設立50周年を記念して、看板・のぼり旗の設置、記念パネル展を実施した。また、大島小学校児童作品展示も併せて開催した。	期間中は60歳以下も入園可能とすることで、世代間交流の促進に寄与した。 令和4年度 289人来園（うち、小学生91人）
来園者200万人達成記念事業	来園者が200万人に達した令和4年10月17日に、指定管理者の花苗生産センターで育てた花苗200株を来園者に無料配布した。また、200万人目の来園者に緑区にちなんだ記念品（ミウルクッキー）を贈呈した。	花苗の配布を通して緑化普及啓発及び施設の利用促進につながった。

自主事業 (若竹園)		
主な事業名	内容等	効果等
防犯カメラ付き飲料自動販売機の設置	施設の敷地内において、犯罪抑止効果の高い防犯カメラ付き飲料自動販売機を設置した。	施設周辺に自動販売機がないことから、利用者が飲料を身近に購入でき、利用者サービスの充実につながった。
新しいホームページの作成	施設独自のホームページを作成し、施設概要及び自主事業等の案内を掲載した。	HPを通じ各種イベントや季節ごとの施設内トピックスを利用者及び関係者に情報発信ができた。
WEBの空室情報の発信	WEBでの空室情報の発信を行った。	システムの導入により、利用者が部屋の空き状況をいつでも確認できる環境を整えた。

5 利用者の満足度

評価（5評価）	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	評価点 (20点満点)	評価点
	S	A	A				16.7

利用者満足度調査	
調査手法	利用者へのアンケート調査を実施
目標値の基準	総合的な満足度の設問に対する「満足」と「やや満足」の回答割合

項目		令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
溪松園	目標値 (%)	90%	90%	90%		
	実績値 (%)	100%	97.0%	98.1%		
	達成度 (%)	111.1%	107.8%	109.0%		
若竹園	目標値 (%)	90%	90%	90%		
	実績値 (%)	99.1%	96.0%	98.1%		
	達成度 (%)	110.1%	106.6%	109.0%		

利用者意見の把握に資するその他の取組

主な取組事項	取組内容
ご意見箱の設置	施設受付にご意見箱を設置し、利用者からの意見要望等を随時受付した。いただいた意見要望等は、施設内の掲示板に回答を掲示し、利用者全員が閲覧できる環境にした。
ホームページからのご意見お問い合わせ	会社のホームページからご意見、お問い合わせを随時受付した。いただいたお問い合わせについては、メールにて回答した。

利用者意見に対する対応

主な意見	対応内容
集会室の畳が古い	(溪松園) 第1・第2会議室の畳を更新した。 (若竹園) 集会室72畳及び和室1~4の畳を更新した。
(溪松園) お風呂の時間を増やして欲しい	令和5年度から浴室の供用時間を30分早め、供用時間を拡大した。
(若竹園) 浴室カランの水が止まりにくい	浴室の一部のカランを更新した。

6 施設の経営状況

評価（5評価）	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	評価点 (20点満点)	評価点
	S	A	C				13.3

施設の収支概要		(千円)				
項目	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	
収入 (a)	114,687	112,673	110,501			
指定管理料	104,084	103,671	104,085			
利用料金収入	0	0	0			
その他の収入	10,603	9,002	6,416			
支出 (b)	107,141	111,397	113,739			
人件費	33,965	36,385	39,050			
本社管理経費	6,469	5,827	2,462			
その他の支出	66,706	69,185	72,227			
本体事業収支 【(a)-(b)】 (c)	7,546	1,276	-3,238			
自主事業収入 (d)	27	90	91			
自主事業支出 (e)	2	9	9			
自主事業収支 【(d)-(e)】 (f)	25	81	82			
全体収支 【(c)+(f)】	7,571	1,357	-3,156			
備考						

7 管理業務の履行状況

検査項目	確認結果				
	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
管理業務	適正に実施	適正に実施	適正に実施		
危機管理	適正に実施	適正に実施	適正に実施		
人員配置・地元活用	適正に実施	適正に実施	適正に実施		
現金管理	適正に実施	適正に実施	適正に実施		
会計・経理	適正に実施	適正に実施	適正に実施		
情報セキュリティ	適正に実施	適正に実施	適正に実施		
情報公開・個人情報保護	適正に実施	適正に実施	適正に実施		
市への報告事項・事前承認等	適正に実施	適正に実施	適正に実施		
加点の有無	無	無	無		
主な加点内容					

8 提案事項のうち未実施のこと

主な事項	内容等	理由・今後の実施見込等
(溪松園) カラオケのど自慢大会	カラオケ機の採点機能を利用してカラオケのど自慢大会実施し、共通の趣味を持つ利用者同士の交流を深めることを目的とする。	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、利用制限がかかったことにより中止とし、代替事業として同じく利用者同士が楽しむ場として「マジックショー」や「バンド演奏」を合わせた「敬老の日スペシャルデー」を実施した。
(若竹園) 若竹芸能大会	若竹園を利用いただいているサークルに発表の場を設け、利用者同士の交流を図ります。	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、利用制限がかかったことにより中止とし、代替事業として同じく利用者同士が楽しむ場として「若竹園寄席」や「カラオケ大会」を合わせた「シルバーウィーク・スペシャルデー」を実施した。

9 提案事項にないが実施したこと

主な事項	内容等	効果等
(溪松園) 溪松園寄席	敬老の日に寄席(落語)を開催し、笑うことによる免疫力向上を図った。また、開催日のみ年齢制限をなくし、世代間交流の促進や施設PRを図った。	利用者間の交流促進のほか、世代間交流の促進や施設PRにつながった。
(溪松園) 敬老の日「マジックショー」	敬老の日にマジックショーを開催し、脳の活性化など健康増進を図った。また、開催日のみの制限をなくし、世代間交流の促進や施設PRを図った。	利用者間の交流促進のほか、世代間交流の促進や施設PRにつながった。
(溪松園) 敬老の日「バンド演奏」	敬老の日にバンド演奏を開催し、世代間交流の促進を図った。また、開催日のみの制限をなくし、施設PRを図った。	利用者間の交流促進のほか、世代間交流の促進や施設PRにつながった。
(若竹園) 認知症カフェ	大沼地域包括支援センターと連携し、認知症の方やその家族、地域の方が集い、おむすびを通じて交流を図るとともに、日ごろの不安や悩み等の相談を行った。	地域交流の促進につながった。
(若竹園) 若竹園寄席	敬老の日に寄席(落語)を開催し、笑うことによる免疫力向上を図った。また、開催日のみ年齢制限をなくし、世代間交流の促進や施設PRを図った。	利用者間の交流促進のほか、世代間交流の促進や施設PRにつながった。
(若竹園) 大学生による紙芝居とお話会	市図書館と連携し、相模女子大の学生による、紙芝居の実演などを行い、世代間交流の促進、地域活性化を図った。	世代間交流の促進や地域活性化につながった。
(若竹園) 大人のための紙芝居	紙芝居での感動や喜び、過去の振り返りが脳の活性化につながることで、活動性・自発性・集中力の向上、認知症の進行予防につながった。	認知症の進行予防につながった。
(若竹園) ロビーでの雑誌配架	テレビ台の下を利用し、「今日の健康」などの雑誌を配架。	入浴後の休憩時やスカイウエル利用中などのひと時に雑誌を読む機会を提供した。
(若竹園) スカイウエルの随時利用	スカイウエル利用について、これまでの時間制から随時利用にした。	スカイウエル利用の待ち時間をなくし、利用者の利便性向上につながった。
(若竹園) 脳トレクイズの実施	毎週1回、ロビーにおいて脳トレクイズを出し、認知症予防につなげる。	過去30題以上出題してきたことで徐々に定着し、利用者にも関心を持ってもらえるようになり、認知症予防につながった。
(溪松園・若竹園) 湯めぐりスタンプラリー	浴室のある公社管理施設をスタンプラリー形式でめぐること、各施設の利用促進及び施設PRにつなげた。	公社のスケールメリットを生かし、施設間のスタンプラリーを行うことで、施設PR及び利用促進につながった。

10 指定管理者の自己評価

コロナ禍以降、利用者数の回復は鈍く、現在、目標数の半分程度の達成率となっている。しかしながら、令和7年1月からの飲酒解禁などの影響もあり、利用者数が少しずつではあるが増加してきている。

施設運営面では、施設内の様々な設備において更新時期に来ており、故障等が頻繁に起きているが、その都度迅速かつ適切に対応し、利用者の利便性と安全性を確保してきた。

自主事業については、概ね当初計画した事業を実施できた。特に、地域包括支援センターと共催した事業の実施や地元小学校と連携したふれあい交流事業を行い、健康づくりや多世代交流の促進を図った。今後も健康増進や世代間交流につながる事業を積極的に展開し、各施設の利用率向上に向けて取り組んでいきたい。

一方で、浜松園における大型バス運行業務について、相模原市の所有の大型バスの空調設備が故障したことにより、夏場の運行が困難となったため、指定管理者が当該業務に必要な大型バスを調達（委託先から借受）し、運行しなければならぬ状況であった。このことなどから、令和6年度における決算額は大幅な赤字となった。この状況は今後も継続すると推測するため、令和8年度末までの指定管理期間における経営状況を改善するのは困難であると考えているが、設備の予防保全の実施や人員の効率的な配置の見直しを行い費用の削減に努めていきたい。

11 所管課意見

《施設の管理運営状況等に対する意見》

健康体操教室や介護予防教室などの事業が定着し、多くの参加者を得ていることを評価する。また、敬老の日の事業や近隣小学校の児童作品展では、年齢制限をなくし、世代間交流のほか、多世代にわたり施設の認知度向上を図るなど、様々な工夫を重ねながら施設運営を行ったことを評価する。

施設が設置されてから、浜松園は50年以上、若竹園は40年以上が経過し、老朽化が進んでいる中で施設や設備の維持管理を計画的に行っており、高い満足度につながっていると考える。一方で、成果指標の達成度について、施設利用率は年々増加しているが、依然として目標値を達成していない。令和7年1月から施設での飲酒を伴う利用を再開したことから、残りの指定期間についても、団体利用や新規利用者の獲得に向けて積極的な広報活動を行うとともに、利用者が快適に過ごせるよう施設運営が行われることを期待する。

12 選考委員会意見

《指定管理者制度の適否・運用の変更の必要性等に関する意見》

民間事業者による運営を行うことで、民間事業者のノウハウを生かすことや、運営コストの削減を図ることができるため、引き続き指定管理者制度を継続することが望ましい。

《施設の管理運営状況等に対する意見》

成果指標の達成度は年々改善している一方で、施設利用者はリピーターが多い。利用者にとって利用しやすい環境を整備したり、効果的に事業のPRをしたりして、新規利用者を獲得してほしい。

成果指標は目標値を達成していないが、実績値は年々上昇している。引き続き上昇させられるよう取り組んでほしい。

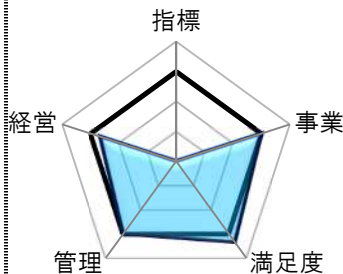
施設利用者はリピーターが多く、新規利用者にとっては、利用者の中でできているコミュニティに入ることが難しい。例えば、複数回で完結する事業を実施することで、参加者同士のコミュニティが生まれ、サークルに発展するなどの効果が見込まれる。

健康体操や介護予防教室など、時代に合わせた事業を展開していることを評価する。引き続き、高齢者のニーズに応じた事業を展開し、高齢者が望む施設運営を行ってほしい。

高齢者の健康寿命を延ばすためには、社会参加や仲間づくりが大切である。老人福祉センターは、高齢者の老後の余暇施設として設置された施設だが、現在、高齢者は、よりアクティブに、より主体的に楽しみながら人のために行動するといった像に変わってきている。高齢者の憩いの場としてのみではなく、高齢者が主体的に利用し、市民の役に立つ施設となれるよう変化させることが必要である。

総合評価（自動判定）

B



(60/100)